

命奪われれない社会を残す

戦争法 廃止へ

今言わなければ

8月に9人目の孫が生まれました。この子たちが大きくなったときに、命を脅かされない、脅かさない、命を奪わない、奪われないという、人として基本的なことが守られる社会や時代を残していく責任が私たちにはあると思います。

政権の体質怖い

憲法について、意見を

作家 あさの あつこさん



出し合って議論すること
自体は悪いことではない

家は、自分の信念を貫く
ためとか国家のためとか

声上げる仲間
日本共産党の提案した
「国民連合政府」は、と

と思います。でも今回の
安保法に関しては、なぜ
ここまで他者の声や違う
意見を、安倍政権は無視
するのかと、その体質を
恐ろしく感じます。政治

ではありません。国民のため
まつりごとをするのが仕
事なはずです。
これだけたくさんの方
が「違憲だ」という声
があるものを、数の力で
強引に押し通してしまう
政治のあり方を怖いと感

じます。独裁者に近いも
のがあると思います。自
公の数の力をもってすれ
ば何でもできると思いい
んではいけないのでし
ようか。安保法の内容も
さることながら、政権の
あり方が怖いし、ものす
ごく危険で気持ち悪いも
のだと感じています。

あさの・あつこ 作家。『パ
ッテリー』『NO. 6』『グラウ
ンドの空』『グラウンドの詩』
ほか

聞き手・米重知聡
撮影・橋爪拓治

SEALDs (シールズ) のように若い人たちが声を上げていることに、尊敬と信頼を持ちつつ、申し訳なさも感じます。声を上げないといけません。時代をつくれたのは私たちですから。若い人たちが政治に関わるのはいいことですが、こんな危機的状況でない関わり方をできるように私たちがつくってこなければいけません。今、自責の念を感じます。今の政治のあり方を変えるために、自分も安保法廃止へ声を上げる仲間に加わっていきたくたいです。